

教科	結果	改善のポイント
中学校 国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語 A (知識) について、市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率にほぼ近く、今回出題している学習内容をおおむね身に付けていると考えられます。</li> <li>○国語 B (活用) について、市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率より低く、全国の傾向と同様、知識・技能を活用する力を更に身に付ける必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■読むことの領域において、様々な種類の文章を目的に応じて読む活動の場を積極的に設け、読み取ったことや考えたことなどを箇条書きや文章等でまとめるようにする必要があります。</li> <li>■書くことの基盤となる語いを増やす手立てとして、日常的に辞書を活用したり、重要語句を使った短文づくり等に意図的に取り組んだりする必要があります。</li> </ul>
中学校 数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数学 A (知識) について、市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率より低く、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける必要があります。</li> <li>○数学 B (活用) について、市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率より低く、全国の傾向と同様、知識・技能を活用する力に課題があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■身の回りにある具体物を利用するなど、観察、実験、操作や実測をとおした活動により推論したことを正しく説明したり証明したりする活動を充実する必要があります。</li> <li>■具体的な事象において情報を読み取り、2つの数量の変化や対応を調べることをとおして、数量関係を見だし、式やグラフで表せるようにする必要があります。</li> <li>■数量関係を文字式で表現したり、文字式を読み取ったりすることができるようにし、数学の基盤となる四則計算については繰り返し練習し、確実な定着を図る必要があります。</li> </ul>

※平均正答率＝問題数に対する正答数の割合（％）が正答率で、児童及び生徒全体の正答率の平均が平均正答率です。

【昨年度との比較】

全国の傾向と同様、昨年度と比較して調査した全教科 A、B 問題で、正答率が下がりました。原因として、昨年度活用として扱われた問題が知識として扱われたり、より正確で深い理解が必要な問題が出題されたりするなど、問題の出題傾向が変わったこと等が考えられます。



◆児童生徒質問紙調査と教科に関する調査との関連

1. 分析結果

- 朝食の摂取、起床・就寝の時刻など食生活や生活のリズムが安定・確立している児童生徒は、教科の正答率が高い傾向にあります。
- 予習や復習、宿題など家庭学習が習慣化していたり、自分で計画を立てて学習を進めたりしている児童生徒は、教科の正答率が高い傾向にあります。
- 「学校に持って行くものを前日かその朝に確かめている」など、学習準備がしっかり整えられている児童生徒は、教科の正答率が高い傾向にあります。
- 新聞やテレビのニュースなど社会的事象に興味があったり、読書が好きであったりする児童生徒は教科の正答率が高い傾向にあります。
- 学校の決まりや友達との約束事を守っている児童生徒は、教科の正答率が高い傾向にあります。

○家庭学習の時間は増加傾向にあり、昨年度の「かのや宅習 1・2 運動」の成果が見られます。

2. 改善のポイント

- 児童生徒に対しては、体育科、保健体育科、家庭科、学級活動等、あらゆる学習の機会をとおして食生活や生活リズムの改善が図られるよう指導の充実に一層努めます。
- 保護者に対しては、P T A や家庭教育学級等の機会をとおして基本的な生活習慣の確立、家庭学習や読書活動の習慣化等について、これまで以上に啓発を図ります。
- 市 P T A 連絡協議会等、関係団体とも連携しながら「かのや宅習 1・2・3 運動」「早寝・早起き・朝ごはん国民運動」「一家庭一家訓」等、具体的な取組をとおして家庭や地域への啓発を図ります。

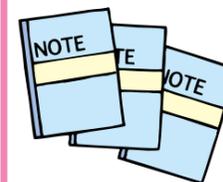
◆改善のポイントについては、重点的な指導や学力の定着を図るための工夫が必要であることから、各学校において、家庭や各種団体とも連携しながら、具体的な手だてを積極的に講じていきます。

【問い合わせ】市学校教育課 ☎ 0994-31-1137

# 平成 20 年度 「全国学力・学習状況調査」の結果について



文部科学省は、今年 4 月 22 日に小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果等を、8 月末に公表しました。市教育委員会では、市内児童生徒の学力状況を知っていただくために市民の皆さんに広くお知らせします。  
 なお、この調査は、あくまで児童生徒が身に付けるべき学力の一部を調査したものです。



◆調査の目的

1. 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
2. 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
3. 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒の教育指導や学習状況の改善に役立てる。

◆調査の内容

1. 教科に関する調査

- 主として「知識」に関する問題（国語 A、算数・数学 A）
  - 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
  - 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など
- 主として「活用」に関する問題（国語 B、算数・数学 B）
  - 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容
  - 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容 など

2. 質問紙調査（児童生徒に対する調査）

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査



◆教科に関する調査の結果

教科	結果	改善のポイント
小学校 国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語 A (知識) について、市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率並みであり、今回出題している学習内容をおおむね身に付けていると考えられます。</li> <li>○国語 B (活用) について、市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率より若干低く、全国の傾向と同様、知識・技能を活用する力に課題があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自分が読み取ったことをもとに、思いや考えを伝え合う場面を数多く設定する必要があります。</li> <li>■授業で学んだことを日常生活に活かして、様々な種類の文章や資料を読むことを大切にする必要があります。</li> </ul>
小学校 算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○算数 A (知識) について、市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率とほぼ同じで、今回出題している学習内容をおおむね身に付けていると考えられます。</li> <li>○算数 B (活用) について、市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率より若干低く、全国の傾向と同様、知識・技能を活用する力に課題があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■計算の仕方を形式的に理解するだけでなく、その意味を考え、数直線や線分図などを使って問題場面を具体的に理解する方法を身に付けるようにする必要があります。</li> <li>■ドリル型の問題だけでなく、日ごろから活用問題等にも取り組み、筋道を立てて考える習慣を身に付けるようにする必要があります。</li> </ul>